

- **スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの策定状況**
- **高等学校の特色化・魅力化**

1 新潟県立高校等のスクール・ミッションの再定義

(1) スクール・ミッションの策定・公表予定時期

- **令和5年3月策定・公表**
- 新潟県教育振興基本計画の見直し（R4年度）に合わせて策定

(2) 策定の手順

- ① R3年9月、県立学校長会議で策定の**趣旨、手順を説明**
- ② R3年9月、スクール・ミッションの再定義の策定・公表について**各学校に通知**
- ③ R3年12月までに、**各学校が自校のスクール・ミッションの原案を作成**し、県教育委員会に提出
- ④ R4年度、見直しをした新潟県教育振興基本計画及び各学校が作成した原案を踏まえ、**県教育委員会がスクール・ミッションの案を作成**
- ⑤ 県教育委員会の案を**市町村に提示し、意見聴取**
- ⑥ 市町村の意見を踏まえ、**各学校と協議しながら**スクール・ミッションを策定し、ホームページに公表（R5年3月）

2 新潟県立高校等のスクール・ポリシーの策定

(1) スクール・ポリシーの策定・公表予定時期

- **令和6年3月策定・公表**
- スクール・ミッションの再定義の策定は、令和5年3月
- スクール・ポリシーの策定は、スクール・ミッションを踏まえて策定することが適切であることから、令和5年度に各学校で策定作業を行う。
- 学校外の関係者から丁寧に意見聴取を行う期間を取るため、策定・公表を令和6年3月とする。
- 本県ではすべての県立高校等が「目指す学校像」や「求める生徒像」を公表しており、教育上支障がない。

(2) 策定の手順

- ① 令和5年3月のスクール・ミッションの策定・公表後から、各学校においてスクール・ポリシー策定の取組開始
- ② **各学校においてスクール・ポリシーの案の作成**及び教職員間での協議
- ③ **保護者や学校外の関係者にスクール・ポリシーの案を提示**し、意見聴取
- ④ 学校外の関係者からの意見を踏まえ、**校内による再検討**を加えた上で、校長がスクール・ポリシーの案を決定
- ⑤ **県教育委員会と協議**し、スクール・ポリシーを決定
- ⑥ 令和6年3月に公表
- ⑦ 令和6年度以降、各学校が学校評価において、スクール・ポリシーに照らして**自校の取組を点検・評価**し、必要に応じて方針の見直し
- ⑧ 各学校がスクール・ポリシーの取組の**点検・評価を県教育委員会に提出**、必要に応じて県教育委員会から方針の見直しを指示


3 高等学校の特色化・魅力化

(1) 魅力と活力ある学校づくり推進事業

現状と課題
社会状況の変化、中学校卒業生数の減少、多様な生徒への対応など

背景
令和3年1月中教審答申における「新時代に対応した高等学校教育等の在り方について」

- 普通科改革や専門学科改革、総合学科の在り方
- 「スクール・ミッション」の再定義、「スクール・ポリシー」の策定の必要性（各高校の存在意義・社会的役割等の明確化）
- 「自前主義」からの脱却、関係機関と連携・協働した多様な学びの実現



事業概要 「県立高校の将来構想」における3つの基本方針を踏まえ、以下のいずれかを重点的に進め、魅力ある学校づくりを目指す学校について支援を行う。

(R 3 年度～R 5 年度の3 か年指定 ①と②新規指定計 8 校 1 校700千円)

① 様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成する教育を推進する学校 (新潟中央、燕中等)

取組例

- ・グローバル企業など学外との連携や海外研修の整備推進、協働学習の推進に関する取組
- ・海外研修旅行や地元の国際的に展開している企業との連携などをおした地球的な課題と地域との関連をテーマとした課題研究や全教科横断による「主体的に探究する力」の育成を目指す取組

選定について

目指す学校像の概要や取組の計画等をまとめた申請書をもとに選定
【選定の観点】
企画のアイデア、活性化の期待、実現の可能性等

② 地域との連携を深化させた人づくりを推進する学校 (村上桜ヶ丘 村松 阿賀野 長岡工業 糸魚川 羽茂)

取組例

- ・地域社会が有する諸課題、魅力について考察する地域人材を活用した実践的な取組
- ・地域と連携した商品、サービス等の開発を行う協働的な取組
- ・地元企業との協働教育プログラムの開発及び企業での学習・研修によるものづくり人材育成の取組

期待する効果

- 中学生から「選ばれる」特色ある学校づくり
- 生徒の進路実現に向けた主体的な取組
- 将来を見据えた各校の目指すべき学校像を具体化

学校名	基本方針	計画概要
新潟中央	グローバル	普通科および普通科学究コースを中心に、大学入試改革への対応および難関大学志願者向けの指導体制の充実、グローバル企業など学外との連携や海外研修の整備推進、協働学習の推進を行い、広い視野を持つ生徒を育成する。
村松	地域	今後本校に併設される県立五泉特別支援学校高等部(分校)との様々な交流をとおして、医療、看護、介護、福祉、教育等の分野への興味・関心を高め、地域の諸課題の考察や課題解決を目指したインターンシップなどを行いながら、地域を支える人材育成を目指す。
村上桜ヶ丘	地域	「GLOBAL.GAP認証取得」に向けた活動をとおして、生徒の主体性や学ぶ意欲を高めるとともに、地元小、中学生からの認知度を高め、地元農産業振興に貢献する取組を目指す。
阿賀野	地域	地域関係機関等と連携し、これまでの取組の深化や教科・科目の横断的な学習、地域課題解決に向けた取組、「瓦テラス」と連携した新商品の開発等をとおして、地域探究コースの取組を充実させる。
長岡工業	地域	地元企業との協働による現場での課題解決と「デジタルものづくり」技術の習得を目指した協働教育プログラムの開発及び企業での学習・研修を行う。
糸魚川	地域	SDGs をテーマに、地元自治体や大学と連携しながら、地域課題の探究活動に取り組み、思考力の深化、アウトプット力を身に付けるとともに、学力の向上を目指す。
羽茂	地域	地域探究コースの活動の充実に向け、ICTの活用や探究学習の推進に向けた教職員のスキルアップを図りつつ、外部団体との協力関係を構築し、地域を支える人材の育成を目指す。
燕中等	グローバル	海外研修旅行や地元グローバル企業との連携などとおして、6年間にわたる地球的な課題と地域との関連をテーマとした課題研究に取り組み、全教科横断で「主体的に探究する力」を身に付け、地球的視野で活躍できる人材を育成する。

(2) 新潟の未来をSaGaSuプロジェクト

文部科学省委託事業：地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）

目的

- Sado(佐渡)とAga(阿賀)とSuikou(新潟翠江)のネットワーク7校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓く**
- 遠隔授業をととして、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設を行い、離島・中山間地域の教育環境の充実を図る。
 - 佐渡市、阿賀町両自治体が推進するキャリア教育を基盤として、地域と一体となって有為な地域人材を育成する。

現状

- 本県の人口減少と少子化の急速な進行
 - ・若者を中心として社会減少数が全国平均以上
 - ・都市部と離島・中山間地域との間の人口偏在（医師の地域偏在を表す指標で全国最下位）
 - ・佐渡市・阿賀町の中卒者数は20年前に比べ約半減
- 通学範囲の広さと通学手段の不便さ
 - ・離島である佐渡市は、東京23区の約1.4倍の面積に県立高等学校等が5校点在
 - ・福島県境にある阿賀町は、県内有数の豪雪地域で、町に唯一ある高等学校以外への通学には30km以上の距離
- 県立高等学校等の小規模化の進行
 - ・本県の全日制及び定時制課程県立高等学校・中等教育学校89校のうち47%が1～3学級（令和3年度募集）

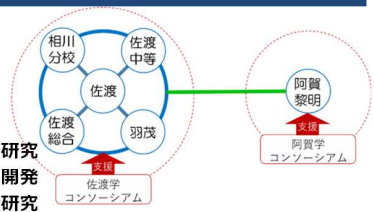
1. 遠隔授業に関する取組の概要

- 新潟市内に立地する新潟翠江高等学校に遠隔授業配信センターを設置し、授業及び補習等を配信
 - 理科、地理歴史・公民、芸術等の専門教員による授業
 - 国語、数学、英語の習熟度別に対応した授業
 - 大学進学や検定対策など、生徒のニーズに応じた各種補習
- 新潟の魅力や最先端技術を踏まえた授業配信
 - 本県の地形的・地質的特徴を学ぶ「地学基礎」を教育課程で共通化
 - VRや専門人材の活用を踏まえた「福祉」科目の授業



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- 佐渡学コンソーシアムと阿賀学コンソーシアムの構築
 - 共通理念は、生徒を「主語」に、大人も「ワクワク」
 - 地域資源の活用や、SDGsを踏まえた「探究的な学び」の充実
- コンソーシアム内外の学校間連携の推進
 - 佐渡島内5校による、佐渡の魅力の情報発信
 - 異なった環境に立地する「地域探究コース」同士の交流、共同研究
例：佐渡・阿賀の魅力を知る観光周遊ルートや体験型メニュー開発；離島・中山間地域が自給できるクリーンエネルギーの調査研究



3. ネットワークを構成する学校

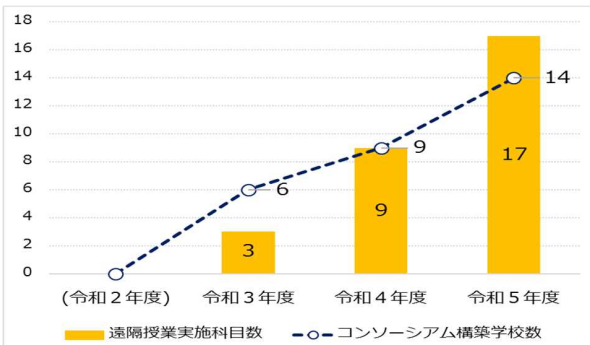
- 新潟県立佐渡高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立佐渡中等教育学校(普通科)
- 新潟県立佐渡高等学校相川分校(定時制、普通科)
- 新潟県立阿賀黎明高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立羽茂高等学校(全日制、普通科)
- 新潟県立新潟翠江高等学校
- 新潟県立佐渡総合高等学校(全日制、総合学科)
- 新潟県立新潟翠江高等学校(定時制・通信制、普通科)

育成を目指す資質・能力

- 専門教員による遠隔授業により、教科・科目における専門的な知識の理解と活用力を育成
- ICTを活用した「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実施により、深い思考力と豊かな表現力を育成
- 地元の佐渡市や阿賀町へ愛着や誇りを抱き、主体的に社会参画・地域貢献を行う態度を醸成
- 地域と地球規模の課題を関連付け、自己のキャリア形成に活かそうとする態度、新潟の未来を創造しようとする態度を醸成

主なアウトプット(活動目標)

- ネットワーク構成校における遠隔授業の実施科目数の増加
- 地元自治体等とコンソーシアムを構築する学校数の増加



主なアウトカム(成果目標)

- 遠隔授業や地域と連携・協働した探究学習によって、「学習意欲の向上につながった」と回答した生徒の割合

令和3年度：50%以上 令和4年度：60%以上
令和5年度：70%以上

- 県の高校生意識調査における「学校の指導が進路実現が役に立つ」と回答した生徒の割合（高校2年生・中等教育学校5年生対象）

令和2年度県内平均値
68.4%と比較して、

ネットワーク構成校※は、
令和3年度：+5ポイント
令和4年度：+8ポイント
令和5年度：+10ポイント

※遠隔授業配信センターとなる新潟翠江高校の数値は除く。

委託期間終了後の見通し

- 県事業への接続と高等学校等の再編整備計画への反映
⇒ 遠隔授業の対象校拡大や、地域と連携した魅力ある学校づくりの一層の推進
- 本事業のコンソーシアムモデルをもとに、県内他地域への新たなコンソーシアム構築に向けた支援